

資料

琉球政府時代の久志村における村落と社会教育

宮城能彦

要約

本資料は、琉球政府時代の久志村における1965年7月から1966年6月までの社会教育主事勤務表（日誌）である。当時の久志村（現在名護市東部）は人口約6千人の稲作を中心とした農村であったが、1960年代には急速に砂糖きび作への転換が進んでいた。そして、村の南部（辺野古区）にはすでに米軍の基地とその周辺の街が形成されていた。

日誌からは、社会教育主事は頻りに字の公民館（字事務所を兼ねる）を訪問・指導し、地域社会との結びつきが強いことがわかる。また、社会教育主事の活動から、当時の社会教育行政が最も力を注いでいたことは「家庭教育学級」や「婦人会活動」、「教育隣組」等の生活に深く関わる事への指導であったことがわかる。

はじめに

1954年、琉球政府文教局は「公民館の設置奨励並びに施設の強化と活動の合理化」を社会教育の努力点として掲げた⁽¹⁾。しかし、よく知られているように、実際には、各字（集落）ごとにすでに地域住民の手によって作られていた字（集落）の事務所（ムラヤー）を公民館として転用して普及させることとなり、「すでに形成され、展開していた集落の様々な活動という実態の部分に、公民館の構想及び機能がいわば覆いかぶさることになった」⁽²⁾。

すなわち、当時「部落会」や「戸主会」と呼ばれていた住民の自治組織の事務所と社会教育行政における公民館はほとんど同一のものであり、宮古や八重山地方を除く多くの「公民館」長はその地域の区長の兼任であった。

従って、琉球政府時代（1952年4月～1972年5月）における公民館＝字事務所は、住民の自治組織であると同時に、文教局社会教育課や教育区教育委員会の指導・管理を受けることになる。

本稿（史料）は、1965年度および1966年度の旧久志村（現在名護市）における久志

区教育委員会の「社会教育勤務表」である。それには、当時の社会教育主事の勤務内容が日誌として綴られており、当時の社会教育行政は、農村において具体的に何を実施していたのかを知ることができる。

また、当時の教育行政が集落の自治に対してどのように指導し影響を与えたかを考察する端緒になると考えられる。

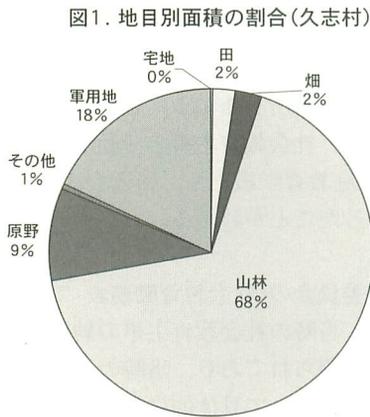
社会教育主事は1952年の琉球政府の設立にともない各連合区教育長事務所14か所に21人が設置されたが、その資格については次のように定められていた⁽³⁾。

地方社会教育主事として望ましい人。1 教育事業、社会事業、児童福祉事業等の関係のある事業に、5年以上経験のあるもの。2 新教育に精通し、教育活動成績顕著で、指導力旺盛なるもの。3 識見、教養高く、民主主義の体得者で公平無私で協力性に富むもの。教育法規に精通し、企画力に富み、行政手腕のあるもの。5 教育者として教育界並に一般社会から希望の厚いもの。6 政党や派閥にとらわれないもの。

1. 1960年代における久志村の概況

久志村は沖縄本島北部の東海岸に位置し、村の西側には一ツ岳・多野岳・名護岳・久志岳・石岳などがそびえ、そこから天仁屋川・汀間川・大浦川・久志大川が太平洋に流れている。

村の土地のほとんどは図1に見るように、山林と原野が主であり、農地はわずかに全体の4%である。(図1)



かつては川沿いに水田が広がっていたが、1960年代以降は砂糖きびが中心となっていた。1964年の農業センサス⁽⁴⁾では、「田」の耕地面積は1077アール、全耕地面積の2.7%にすぎない。(表1)

表1. 耕地の種類別経営農家数及び面積(1964年久志村)

	総数	田	普通畑	樹園地
農家数(戸)	728	582	708	160
面積(アール)	39,752	1,077	25,461	3,514

1964年農業センサスより作成

1965年における久志村の人口⁽⁵⁾は5,935人、世帯数1,507戸、1世帯当りの人員数は3.96人である⁽⁶⁾。村の人口規模としては隣接する大宜味村や久米島の具志川村とほぼ同じで、当時の沖縄県において人口の少ない部類に属する。

村は、底仁屋(9戸33人)、天仁屋(82戸408人)、嘉陽(71戸264人)、安部(65戸248人)、三原(140戸658人)、汀間(65戸291人)、瀬嵩(80戸323人)、大浦(45戸172人)、二見(37戸182人)、辺野古(612戸2,070人)、豊原(78戸325人)、久志(176戸706人)、大川(45戸234人)の集落から成る。

1965年の久志村村政要覧によれば、「農業」就業者620戸3,333人が最も多く、続いて軍作業144戸817人、サービス業93戸609人が多く、林業(24戸168人)と水産業(16戸99人)「就業者」は少ない⁽⁷⁾。(表2)

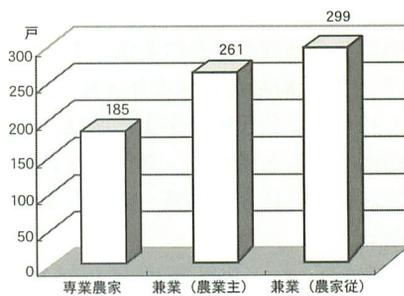
表2. 業種別就業者(1965年久志村村政要覧)

	戸数	人口		戸数	人口
農業	620	3,333	水産業	16	99
林業	24	168	商業	66	421
サービス業	93	609	官公吏	66	301
工業	18	129	軍作業	144	817
運輸業	29	178	その他	70	319

1964年農業センサスより作成

1964年農業センサス⁽⁸⁾によれば、農家戸数745戸の内専業農家185戸(24.8%)、農業を主とする兼業農家261戸(35.1%)、農業を従とする兼業農家299戸(40.1%)である。(図2)

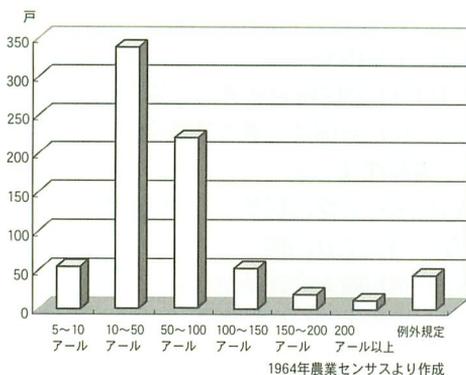
図2. 専業兼業別農家数(1964年久志村)



1964年農業センサスより作成

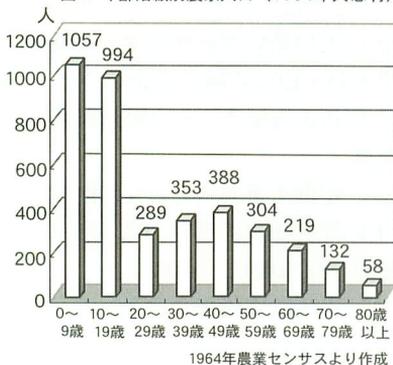
農家の経営規模は50アール未満が多く全農家数の53.6%を占める。200アール以上の農家は10戸(1.3%)のみである。(図3)

図3. 経営耕地規模別農家数(久志村1964年)



本資料では、婦人会や子ども会、青年会、家庭教育学級が多く見られるので、久志村の年齢構成を見ておこう。残念ながら、当時の国勢調査では村単位の年齢階級構成は公表していないため、参考として農業センサスの年齢階級別農家人口を示しておく。(図4)

図4. 年齢階級別農家人口(1964年久志村)



1964年当時、久志村の農家では、20代の若者は少ないが、10代以下の子供が多く(全体の54%)、60代以上の老人の数と割合は多くなかったことがわかる。

2. 久志教育区の概況

1972年の施政権返還(本土復帰)以前の地方教育行政は、市町村を単位としながらも市町村とは別の法人である教育区から成っていた。当時の久志村は久志教育区であり、その実質的上部組織は北部連合教育区であった。

1966年度における久志教育区の社会教育費の総額は1,622ドルで、北部連合教育区では、国頭(1,517ドル)、上本部(1,873ドル)、本部(1,618ドル)、とほぼ同じ規模である。全教育区の平均は3,170ドルであるから、予算規模では平均の約半分でしかない。ちなみに、那覇教育区は10,354ドル、名護教育区4,196ドルである。

しかし、同じ年の人口一人あたりの社会教育費は0.27ドルで、全琉の一人あたり社会教育費0.19ドルを上回っている⁹⁾。

3. 資料：久志区教育委員会「1965年7月以降・社会教育勤務表」

1965年度

7月分社会教育勤務実施表

- 1日(木) 内勤
- 2日(金) 瀬嵩教育隣組訪問
- 3日(土) 本部町婦人会幹部研修会
- 4日(日) "
- 5日(月) 安部教育隣組指導
- 6日(火) 主事会(名護)
- 7日(水) 大浦歌声サークル、三原映写会、保母講習会
- 8日(木) 予算公聴会、公民館訪問(天、底、嘉)
- 9日(金) 公民館施設まわり(平良、屋我地、屋部、南恩納、宇座、中川、松川、〇〇、久志)
- 10日(土) 二見婦人学級、生活指導研修、婦人新旧役員懇談会
- 11日(日)
- 12日(月) 久志教育隣組指導

13日(火) 大浦映画会
 14日(水) 嘉陽用事教育学級、幼稚園教育研修(金武)
 15日(木) 三原教育隣組指導
 16日(金) 北部会館落成祝賀会
 17日(土) セダケ幼児教育学級
 18日(日) 東村婦人総会(レク指導)
 19日(月) 内勤
 20日(火) 内勤
 21日(水) 久辺社会学級、大浦歌声サークル
 22日(木) 安部公民館指導
 23日(金) 生徒会リーダー研修会(まきや)
 24日(土) 内勤
 25日(日) 久志村青年会野球大会
 26日(月) 豊原家庭教育学級、辺の古公民館訪問
 27日(火) 主事研修会(やか)
 28日(水) 宜野座青少年モデル地区中間発表、久志公民館訪問
 29日(木) 北部地区婦人連絡会総会、セダケ公民館琉大交歓
 30日(金) 冲学協会研修会(まきや)
 31日(土) 久志公民館教育懇談会

8月分社会教育勤務実施表

1日(日)
 2日(月) 夏期講習
 3日(火) 〃
 4日(水) 〃 台風10号ジーン
 5日(木) 〃
 6日(金) 〃
 7日(土) 〃
 8日(日)
 9日(月) 夏期講習
 10日(火) 〃
 11日(水) 旧盆
 12日(木) 内勤
 13日(金) 全琉主事会(ナハ)
 14日(土) 内勤
 15日(日)
 16日(月) 内勤

17日(火) 辺野古公民館訪問
 18日(水) 天仁屋、底仁屋、嘉陽、安部公民館訪問、久志へ文庫移動
 19日(木) セダケ、大浦、二見公民館訪問、豊原公民館訪問
 20日(金) 佐藤首相歓迎(名ゴへ)
 21日(土) 内勤
 22日(日) 公民館備品購入の為(ナハへ電報)
 23日(月) 安部幼児教育懇談会、マツダ木工所へ備品注文
 24日(火) 三原公民館、汀間公民館、大川公民館、バス会社訪問
 25日(水) 婦人会評議員会
 26日(木) 幼児教育懇談会(汀間)、大浦歌声サークル
 27日(金) 三原婦人会
 28日(土) 伊江島青年幹部研修会
 29日(日) 伊江島青年幹部研修会、那ハエイサーコンクール、辺の古婦人会指導
 30日(月) 辺の古婦人会指導、嘉陽婦人会指導
 31日(火) 辺の古婦人会指導、嘉陽婦人会指導、汀間婦人会指導

9月分社会教育勤務実施表

1日(水) 大川幼児教育懇談会、嘉陽婦人会・汀間婦人会・辺の古婦人会指導
 2日(木) 辺の古婦人会・嘉陽公民館・有銘婦人会指導
 3日(金) 定例主事会(名ゴ)、米寿祝
 4日(土) 社会体育講習会(久志校)、青年幹部研修会(三原校) - 40人
 5日(日) 青年幹部研修会
 6日(月) 地区婦人会解散総会(久志公民館)
 7日(火) 汀マ婦人会指導、ナハ(映写機部品、レコード購入のため)
 8日(水) 第一回聖火宿泊記念駅伝大会、瀬嵩家庭教育学級
 9日(木) 汀マ婦人会指導
 10日(金) 三原教育隣組指導
 11日(土) 三原婦人会指導

12日(日)
 13日(月) 内勤
 14日(火) 北部地区レク講習会
 15日(水) 台風
 16日(木) 台風
 17日(金) 保母講習会(セダケ)
 18日(土) 村婦人会評議員会
 19日(日)
 20日(月) 豊原婦人会懇談会、久志校区PTA
 婦人部レク指導、久志隣組指導
 21日(火) 辺の古婦人会懇談会
 22日(水) 久辺校PTA 婦人部レク講習、大
 浦歌声サークル指導、セダケ婦人会
 23日(木) (秋分の日 公休)、汀間幼稚園開
 園式
 24日(金) 嘉陽校区婦人会指導、久志区教育
 隣組連絡協議会
 25日(土) 底仁屋公民館落成祝
 26日(日) 村婦人会移動研修(中部・ナハ)
 27日(月) 三原校区婦人会指導
 28日(火) 全琉主事研修会、辺の古婦人会、
 大浦サークル
 29日(水) 宜野座村レク講習会、豊原婦人学
 級、汀間幼稚園参観
 30日(木) 公民館長研修会、社会福祉協ぎ会
 総会、三原校区婦人会、久志婦人学級
 ※セダケ部落PTA 研究指定ひきうける

10月分社会教育勤務実施表

1日(金) 安部婦人会、汀間婦人会、二見婦人
 学級
 2日(土) 三原小中校運動会
 3日(日) 久志小中校運動会、嘉陽小中校、運
 動会
 4日(月) 久辺小中校運動会
 5日(火) 三原校区体協役員会
 6日(水) 公民館長研修会
 7日(木) 天仁屋小中校運動会
 8日(金) 保母研修会、セダケ家庭教育学級
 9日(土) 村陸上協議会準備のため出勤 体育
 の日(公休)

10日(日) 久志村陸上競技大会
 11日(月) 久志隣組訪問
 12日(火) 汀間幼稚園指導、宜野座地区保母同
 好会
 13日(水) 内勤(申請書作成)、大浦歌声サー
 クル
 14日(木) 豊原婦人学級(夜)、内勤(昼)
 15日(金) 三原教育隣組(夜)、内勤(昼)
 16日(土) 青年学級研修会(1:30名ゴ)
 17日(日) 地区体協陸上競技会(名ゴ)
 18日(月) 底仁屋幼児教育懇談会
 19日(火) 久志公民館図書購入(ナハ)
 20日(水) 久志婦人学級、大浦歌声サークル、
 辺の古公民館訪問
 21日(木) 嘉陽幼児教育学級
 22日(金) 辺の古教育懇談会、二見婦人学級
 23日(土) 久志村小中校陸上競技会、善行児
 童の表彰式
 24日(日) 郡青協幹部研修会
 25日(月) 内勤
 26日(火) 保母研修会
 27日(水) 三原、汀間幼稚園訪問、宜野座地
 区保育同好会、大浦教育講座
 28日(木) 教育委員会
 29日(金) 中部地区レクリエーション研修会
 30日(土) 地区中体連、教職員会陸上競技会
 31日(日)

11月分社会教育勤務実施表

1日(月) 汀間幼稚園、久志公民館訪問、瀬嵩
 公民館総会
 2日(火) 瀬嵩教育隣組指導
 3日(水) 瀬嵩こども会ラジオ体操参観激励、
 汀間公民館映写会
 4日(木) 内勤
 5日(金) 全琉主事研修会、大川公民館映写会
 6日(土) 内勤
 7日(日)
 8日(月) 久志教育隣組訪問指導、三原校訪問
 9日(火) 瀬嵩教育隣組臨時総会
 10日(水) 宜野座地区保育同好会総会並び講

習会、二見婦人会訪問

- 11日(木) 瀬嵩家庭教育学級
- 12日(金) 村婦人会評議員会
- 13日(土) 内勤
- 14日(日) 汀間婦人会講座
- 15日(月) 三原教育隣組指導
- 16日(火) 内勤
- 17日(水) 久志婦人学級
- 18日(木) 三原教育懇談会、石川文化会館へ
フィルム借用のため
- 19日(金) 豊原婦人学級、東村農業総合展示
発表会
- 20日(土) 読書会(久志小)、教頭会(学力向
上対策協会の件)
- 21日(日) 国頭郡青年駅伝大会、セダケ教育
隣組連絡泳者会
- 22日(月) 久志教育隣組指導
- 23日(火) 勤労感謝の日(公休)
- 24日(水) 久志教育隣組連絡会(指導者研修
会)
- 25日(木) 二見家庭教育学級、北部地区婦人
指導者研修会
- 26日(金) 学力向上対策協会の総会
- 27日(土) 野外研修会(名ゴ、勝山)
- 28日(日) 野外研修会(")
- 29日(月) 婦人幹部研修会、那覇地区婦人指
導研修会
- 30日(火) 定例主事会(国頭)

12月分社会教育勤務実施表

- 1日(水) 三原社会学級、瀬嵩教育隣組、地域
協研修会(金武)
- 2日(木) 内勤
- 3日(金) 内勤 有銘青年学級(夜)
- 4日(土) 内勤
- 5日(日)
- 6日(月) 久志教育隣組連絡協議会
- 7日(火) 内勤
- 8日(水) 地区教研修会、瀬嵩家庭教育学級
- 9日(木) 安部教育隣組
- 10日(金) 保母研修会、二見家庭教育学級

- 11日(土) 認定講習受講
- 12日(日) 久志教育隣組連絡協会の学事奨励
(学習発表会)
- 13日(月) 認定講習受講
- 14日(火) " 汀間婦人会訪問
- 15日(水) "
- 16日(木) "
- 17日(金) "
- 18日(土) "
- 19日(日)
- 20日(月) 認定講習受講
- 21日(火) "
- 22日(水) "
- 23日(木) 年休
- 24日(金) 年休
- 25日(土) 年休
- 26日(日)
- 27日(月) 内勤
- 28日(火) 内勤、事務所移動
- 29日(水) 内勤、辺の古公民館訪問
- 30日(木) 少年団体リーダー研修会
- 31日(金) 創作舞踊講習会(名護)

1月分社会教育勤務実施表

- 1日(土) 公休
- 2日(日)
- 3日(月) 三原公民館建設委員会
- 4日(火) 名ゴレク講習会
- 5日(水) 三原公民館建設委員会
- 6日(木) 若人の森建設大会(なは) 辺野古婦
人会訪問
- 7日(金) 教育予算説明会(名護) 安部教育隣
組映写会
- 8日(土) 瀬嵩教育隣組訪問
- 9日(日)
- 10日(月) 二見婦人会訪問、辺野古(委員長
訪問)
- 11日(火) 辺野古婦人学級、地区教職委員会
訪問(幼稚園研修会)
- 12日(水) 豊原家庭教育学級、金武婦人会幹
部研修会

13日(木) 文教局へ金・土研修打ち合わせ
 14日(金)
 15日(土) 汀間婦人会、三原教育隣組成人式
 16日(日)
 17日(月)
 18日(火)
 19日(水)
 20日(木) 嘉陽公民館訪問
 21日(金) 本土研修のため那覇へ
 22日(土) 那覇発→鹿児島へ(ひめゆり丸で)
 23日(日) 鹿児島着
 24日(月) 鹿児島発東京へ(きりしまで)
 25日(火) 東京着(目白うずら荘に宿泊)
 26日(水) 文部省訪問、琉球政府東京事務所訪問
 27日(木) 全国家庭教育研究集会(文部省主催)
 28日(金) ”
 29日(土) 全国家庭教育研究大会(日本女子社会教育会主催)
 30日(日) ”
 31日(月) 小田原市教育委員会訪問

2月分社会教育勤務実施表

1日(火) 千葉県教育庁訪問、千葉県東金市訪問
 2日(水) 休養
 3日(木) 神奈川県津久井郡藤野町立藤野小学校
 4日(金) 東京都内見学(オリンピック施設)
 5日(土) 長野県松本市へ(アルプスで)
 6日(日) 松本市見学
 7日(月) 長野発…千葉へ(アルプスで)
 8日(火) 神奈川県津久井教育事務所訪問
 9日(水) 東京発-鹿児島へ(きりしまで)
 10日(木) 鹿児島着
 11日(金) 鹿児島市内見学
 12日(土) 鹿児島発ナハへ
 13日(日) 那覇着
 14日(月) 出勤
 15日(火) 社会教育課へ

16日(水)
 17日(木) P T A研修(名ゴ)
 18日(金) 読谷婦人会
 19日(土) 社会体育研修会(名ゴ)
 20日(日) 宜野座地区P T A研修会
 21日(月) P T A研修大会打合せ、久志隣組訪問
 22日(火)
 23日(水) 宜野座地区幼児〇〇大会(漢那公民館)
 24日(木) 村教職員会学年研修会(嘉、三、久)
 25日(金) 集団就職(本土)者訓練(北連)
 26日(土) セダケ教育隣組連絡協議会、全沖P T A研修大会、村婦人会評議員会
 27日(日)
 28日(月) 主事会(名ゴ)

3月分社会教育勤務実施表

1日(火) 瀬嵩教育隣組訪問、英語講師斡旋のため辺の古へ
 2日(水) 村教職員会視察研修
 3日(木)
 4日(金)
 5日(土) 安部教育隣組訪問、久志小中学芸会
 6日(日)
 7日(月) 主事研修会(ナハ)
 8日(火) 瀬嵩家庭教育学級
 9日(水) 英語講座、地区教職員会行事計画委員会
 10日(木) 家庭教育学級(二見) 姑と嫁の集い
 11日(金) 英語講座
 12日(土)
 13日(日) 女子青年研修会
 14日(月) 定例主事会(今帰仁)、英語講座
 15日(火) 三原教育隣組訪問
 16日(水) 豊原母親学級、英語講座
 17日(木) 嘉陽幼児学級
 18日(金) 大川公民館講座
 19日(土)

- 20日(日) 久志村青年会総会
 21日(月) 久志婦人学級
 22日(火)
 23日(水) 英語講座、卒業式(三原校、久志校、天仁屋校、嘉陽校〇〇)
 24日(木) 文教局へ、化学教材社へ
 25日(金) 英語講座
 26日(土)
 27日(日) 末次会長歓迎会
 28日(月) 英語講座
 29日(火) 北部地区社会学級研修会
 30日(水) 英語講座
 31日(木) 青少年健全育成会月間運動説明会
- 4月分社会教育勤務実施表**
- 1日(金) 図書館整理(アルバイト生で) 琉球政府創立記念日
 2日(土) コザ市婦人会研修会(マキヤ)
 3日(日) " (家庭の日)
 4日(月) 英語講座
 5日(火) 青少年健全育成月間運動説明会(2:00～4:00)
 6日(水) 教員辞令交付式、英語講座
 7日(木) 内勤
 8日(金) 文教局へ(公民館の件で) 英語講座
 9日(土) 内勤
 10日(日) 二見家庭教育学級
 11日(月) 英講座、三原校訪問
 12日(火) 内勤(ポスター配付)
 13日(水) 英講座、久志校訪問
 14日(木) 内勤
 15日(金) 選挙事務所講習会、英語講座
 16日(土) 国頭村婦人会レク指導
 17日(日) 久志村長選挙(投票)
 18日(月) 久志村長選挙(開票日)
 19日(火) 内勤(家庭診断アンケート作成)
 20日(水) 英講座 清掃習慣
 21日(木) 内勤
 22日(金) 英講座、天仁屋校区青少年健全育成懇談会(2～4:30)
 23日(土) 久志校区青少年健全育成懇談会(1
- ～4:30) 研究教員懇談会
 24日(日) 国頭村婦人研究発表会
 25日(月) 英講座、三原青少年健全育成会懇談会(6～8:30)、ナハへ〇〇〇の)
 26日(火) 委員会、久辺校青少年健全育成会懇談会
 27日(水) 英講座、セダケ教育隣組
 28日(木) 内勤 祖国復帰大会
 29日(金) コイノボリ作成講習 天皇誕生日
 30日(土) 内勤
- 5月分社会教育勤務実施表**
- 1日(日) 瀬嵩隣組指導
 2日(月) めぐまれない子の調査、豊原婦人会研修、英講座
 3日(火)
 4日(水) レクレーション講習、英講座
 5日(木) 子どもの日(子ども大会準備)、有銘青年会指導
 6日(金) 北部地区社会教育総合研修大会、英講座
 7日(土) 子ども大会準備
 8日(日) 子ども大会、嫁と姑の集い(嘉陽)
 9日(月) 玉城村公民館研究発表会、英講座
 10日(火) 二見家庭教育学級
 11日(水) 辺の古婦人会訪問、英語講座
 12日(木) 内勤
 13日(金) 予算案作り、英語講座
 14日(土) 本部町青年会研究発表会
 15日(日) 三原教育隣組指導
 16日(月) 英語講座
 17日(火) スポーツ〇議会、文教局社研司会者打合せ会
 18日(水) 英語講座
 19日(木) 地区PTA総会(ぎのざ)
 20日(金) 全琉社会教育総合研修大会、英講座、辺の古婦人会
 21日(土) " 野外研修会(まきや)
 22日(日)

23日(月) 主事研修会(ナハ家庭教育関係)、英講座
24日(火) 主事研修会(ナハ視聴覚関係)
25日(水) 英語講座、予算委員会
26日(木) 文教局へ(社研修きろく借用のため)
27日(金) P T A研修準備会、英語講座
28日(土) 今帰仁婦人研修会
29日(日) 村産業共審会
30日(月) 屋我地社会学級研修会
31日(火) 予算研究委員会
6月分社会教育勤務実施表
1日(水) 親切月間運動、警護講座
2日(木) 内勤
3日(金) P T A大会準備、英語講座おわる
4日(土) 村P T A研修大会
5日(日)
6日(月) 瀬嵩嫁と姑の集い
7日(火) 生徒指導連絡協ぎ会
8日(水) 社教主事研修会
9日(木) セダケ学事奨励会、具志川村婦人研修会
10日(金) 委員会、二見家庭教育学級(総合大会の話し合い)
11日(土) 内勤
12日(日) 村青年会球技大会
13日(月) 豊原母親学級
14日(火) 内勤
15日(水) 三原教育隣組
16日(木) 内勤
17日(金) 内勤
18日(土) 久辺公民館落成式、村婦人会役員会
19日(日) 宜野座青少協研究発表会、貝がら講習
20日(月) 内勤
21日(火) セダケ公民館レク指導
22日(水) 学校まわりノート集め、嘉陽婦人会
23日(木) 宜野湾婦人総会、久辺校、久志公

民館、村婦人会役員会
24日(金) ノート審査(〇-い)、三原婦人会訪問
25日(土) 総合研修大会準備、大川婦人会訪問、羽地稲田研究発表
26日(日) 第3回社会教育総合研修大会
27日(月) 総合開会整理(後かたづけ)、ノート展示会(久志小)
28日(火) 予算議会
29日(水) 内勤
30日(木) ノート展示会(三原小)

まとめ

ここでは、掲載した1965年度に1966年7月から1967年6月までの一年を加え、1965年7月から1967年6月までの合計2年分の日誌から、いくつかの特徴を見いだしていきたい。

第一に、いわゆる「内勤」の日が極端に少なく、日々村中の公民館などを巡回し、婦人会や教育隣組家庭教育学級などの指導に当たっているということである。内勤は、2年間の全勤務日数673日中86日(12.8%)にすぎない。

そのことから、当時の社会教育主事の地域との結びつきの強さがわかる。あるいは少なくとも当時の琉球政府の社会教育行政が地域社会と密接に関わろうとしていたことがうかがえる。

ちなみに、社会教育主事という仕事柄日曜日や夜間の勤務が多く出勤日数が多くあまり休暇を取っていない。2年間730日中、日曜・祝祭日および台風のための休日2日を含めて休暇を取ったのは57日にすぎない。

勤務内容で最も多いのは各字(部落)の「婦人会」の指導で、2年間にのべ64回も巡回指導を行っている。(婦人会関係では、他市町村婦人会への訪問が5回、婦人会懇談会への出席が2回見られる。)また、成人学級の一環として、子供のしつけ・教育、文芸、

茶道、和服の着付け等の講習が行われていた「婦人学級」の指導は57回(3位)であり、社会教育主事が最も多く関わっていたことは婦人会を中心とした活動であったということがわかる。

公民館への訪問指導は、2年間で59回(2位)、1～2週間に1回は各字の公民館を訪問していることになる。

「教育隣組」は2年間で49回(4位)、各字で指導を行っている。教育隣組はPTA活動の字ごとの取り組みであり、子供たちの健全育成を目的とした組織である。「本土」復帰後は次第に地域子ども会へと移行していった。青少年の健全育成との関わりでは、青少年健全育成懇談会や青少年健全育成協議会の関係の仕事が2年間で24回、全体で6番目に多い。

これも成人学級の一環としての「家庭教育学級」指導25回(5位)。家庭学級では「家庭の機能と役割」「子供の発達段階と性格形成」「親の教育上の責任」「しつけの問題」等といった内容の講習が行われていた⁹⁹。当時久志村においては瀬嵩と二見で開かれていた。

当時の社会教育主事は、研修を行うだけでなく、自らが研修を受ける機会も多かった。同じ連合教育区のみならず、他連合教育区や那覇市における研修も少なくなかった。社会教育主事の研修が2年間で17回、その他の研修13回、「本土」での研修会が1回行われている。それは、当時の社会教育主事が「優秀」だと判断された教員から抜擢されたこと、教頭と同待遇であったことと合わせれば、琉球政府文教局がいかに社会教育を重視していたかが理解できるよう。

以上のことから、琉球政府による社会教育行政の末端では、婦人学級や家庭学級などの地域住民の生活に関する直接の指導や、公民館指導、婦人会指導といった地域住民の活動に直接・積極的に関わっていたことがわかる。

註

- (1) 「中央教育委員会(第11回)会議録」戦後沖縄社会教育研究会『沖縄社会教育史料第2集』1978、81頁所収
- (2) 末元誠「琉球政府下、公民館の普及・定着過程—ムラと公民館」小林文人・平良研一編著『民衆と社会教育』1988、エイデル研究所、208頁
- (3) 沖縄県教育委員会編『沖縄の戦後教育史』1977年、785頁
- (4) 琉球政府企画局統計庁『1964年農業センサス報告第1巻市町村編・その1(北部地区)』1966年
- (5) 琉球政府企画局統計庁『1965年臨時国勢調査報告』1968年発行より。(以下人口・世帯数については同書による)
- (6) 『1965年久志村村政要覧』では人口6,282人、世帯数1,134戸である。
- (7) 沖縄市町村会編『沖縄市町村要覧』(1968年版1969年)では、第1次産業従事者は1,182人(47%)、第2次産業従事者187人(7%)、第3次産業従事者は1,161人(46%)。
- (8) 琉球政府企画局統計庁『1964年農業センサス報告第1巻市町村編・その1(北部地区)』1966年
- (9) 猪山勝利「占領下沖縄の社会教育財政」小林文人・平良研一編著『民衆と社会教育』1988年、エイデル研究所、112～117頁
- (10) 沖縄県教育委員会編『沖縄の戦後教育史』1977年、748頁